

外国語（英語）調査資料 1 - 1

<p>項目</p>	<p>書名 NEW HORIZON English Course</p> <p style="text-align: right;">2 東 書</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<p>○各単元の到達目標が明確である。習得、活用、発信の3部構成で、達成度を評価する場を設け、目標と評価の一体化が図られ、確実な定着を目指している。○今日的課題や生徒の知的好奇心を喚起する題材をそろえ、3年間の中で、生徒の興味・関心や見方を深めることをねらっている。○小学校の外国語活動に関連づけた「Hi, English」と文字指導を行う「Unit 0」の二層型入門期で4技能のバランスをとりながら、小中のスムーズな接続を図っている。○「学び方コーナー」では3学年で段階的に英語学習のポイントを扱っている。</p>
<p>特 内 容 色</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫> ○全体は、Unit, Daily Scene, Presentationの3部構成になっている。Unitで基本文習得をねらい、Daily Sceneで日常生活に使える場面の表現を、実写とセリフを通して習得できるよう配慮し、Presentationで自己表現活動による情報発信を行うことを目指している。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫> ○発信型の練習問題であるPresentationに取り組むことで、コミュニケーションに直結する思考力、判断力、表現力の育成をねらい、読みの指導では、読後に感想や賛否・理由を示せるような工夫がされている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ○1ページの紙面スペースを有効に活用して『一言メモ』や『コラム』を取り入れ、本文の内容理解やコミュニケーション活動に役立つ情報がわかりやすく説明されている。 ○英語を意欲的・主体的に学習するための方法を身に付ける単元である『学び方コーナー』の欄が用意されている。</p> <p><外国語を通じて、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫> ○Unit（文法と語彙の習得）→ Daily Scene（コミュニケーション活動による活用）→ Presentation（自己表現活動による発信）の3部構成により、4技能を総合的に学べる流れになっている。 ○各構成には技能別の練習問題があり、4技能がそれぞれ重点化されながら適宜統合されている。また、繰り返し学習することで、基礎的な知識・技能が身に付けられる工夫がみられる。</p>
<p>資 料</p>	<p>○各学年とも「Bonus Word Box」や「Word Room」が設けられ、表現に必要な語彙を絵入りでわかりやすく提示している。また、1年生の「一言メモ」や、2, 3年生の「コラム」など、本文の内容理解やコミュニケーション活動に役立つ情報が多数掲載されている。2, 3年生の「基本文一覧」では、文法項目別や場面ごとに整理してまとめられている。 ○巻頭に本文関連写真資料がある。本文は多くのセクションが見開きで展開されている。単語は本文横に配置されている。</p>
<p>表記・表現</p>	<p>○1年は年間通じてブロック体、手紙や作文は手書きの文字が使用されている。1年で各単語にアクセント付記、2・3年で発音記号が併記されている。欄外に発音記号を使用した音の分類がある。 ○1年のユニット5以降で文字が小さくなり、2年でさらに小さくなり、字間が狭くなっている。3年の資料編では細かい文字となり、情報量が増えている。</p>
<p>総 括</p>	<p>○グローバル化に対応し、世界に発信できる日本人をめざして、各学年にテーマを設けてストーリー性のある題材展開をしている。1年生では、世界各国の文化に「出会う」ことをテーマとしている。2年生では、学校外で職業体験をしたり、海外でホームステイをしたりして、自分の知識や視野を「広げる」ことをテーマとしている。3年生では、1年生で扱った国を別の視点で取り上げたり、現代社会の課題や日本の文化について考えを深めたりして、新たな視点で「見つめ直す」ことをテーマとしている。</p>

外国語（英語）調査資料 1 - 2

項目	書名 SUNSHINE ENGLISH COURSE 9 開隆堂
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかわり	<p>○学期ごとの到達目標が見えるだけでなく、3年間の学習内容について見通し・目標をもった学習を可能にするため、通常課で学んだ表現を用いて行うパフォーマンス活動を各学年に3か所設置している。</p> <p>○基本事項の理解・習得を十分に積んだ状態で本文の学習に進むので、生徒にとって、重要なポイントと学ぶ順序がわかりやすい構成になっている。</p> <p>○生徒が自分の立場で考えられる題材を精選して提供している。</p>
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫> ○基礎的な学習項目である Basic Dialog は、文型・文法事項をコミュニケーション活動を通じて習得させるために、文法構造による提示ではなく対話文で提示し、文型・文法事項を知識にとどめず、実際に使える形で提示している。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫> ○題材を通じて生徒の身近な日常生活を英語で表現できる能力を育成する配慮がなされている。また、学年が上がるに従い、日本のことについて知ったり述べたりする題材や活動を増やすように構成されている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ○セクションの最初に到達目標が提示され、生徒が見てすぐに大事なことがわかるようになっている。また、『Basic Dialog』で学ぶ言語材料が基本的な対話形式で示され、『My Project』で自主的に学習できるよう工夫されている。 ○ My Project では、自ら原稿を考え（思考力）、内容を取捨する判断をし（判断力）、スピーチを通して自己表現する（表現力）ことで自信をつけ、この過程で、できる喜びから自己肯定感を体得し、主体的に学習に取り組めるような構成になっている。</p> <p><外国語を通じて、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫> ○ Program（通常課）での総合的な学習に加え、POWER-UP シリーズでは4技能を個別集中的に育成できる構成になっている。 ○各技能に特化した POWER-UP とそれらの技能を有機的に統合する My Project によって、4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成できるようになっている。</p>
資 料	<p>○各学年とも巻末に「できるようになったことリスト」が一覧化され、自分が身につけたことの軌跡がわかるようになっている。1年生では「Word Web Corner」や、切り離して活用できる「アクションカード」などがある。また各学年とも、巻末に単語集が設けられている。</p> <p>○各学年の多くのセクションで、本文は見開きで展開されている。巻頭に本文の題材情報が写真で紹介されている。単語は、読み物教材は本文下に、それ以外は本文横に配置されている。各学年とも、セクション毎に「音読マーク」が設けられている。</p>
表記・表現	<p>○1年はプログラム8までブロック体、手紙や日記は手書きの文字、メールはコンピュータの字体が使われている。1年で各単語にアクセント付記、2・3年で発音記号が茶色の文字で併記されている。欄外に音声面のアドバイスがある。</p> <p>○1年のプログラム5以降で文字が小さくなり、2年でさらに文字が小さくなり、行間が狭くなっている。3年の付録の読み物教材では細かい文字となり、情報量が増えている。</p>
総 括	<p>○「3年間を見通した到達目標」を掲げている。「総合的・統合的な英語活用の場面」が設定されているなどの特徴が受け継がれている。</p> <p>○生徒の活発な学習を促すよう、協働学習や自己評価の機会を全学年に設けている。英文の内容は生徒にとって興味深い題材が用意されていて、生徒が「自分の立場で考えられる」ようになっている。</p> <p>○2つ以上の技能を統合的に活用する活動を設けて、実際のコミュニケーション場面に一層対応した活動を設けている。</p>

外国語（英語）調査資料 1 - 3

項目	書名 TOTAL ENGLISH 11 学 図
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○小学校で外国語活動に興味をもった生徒も苦手意識を抱いた生徒も中学校の英語学習で新たな一歩を踏み出せるよう、1年の接続期は特別構成になっている。</p> <p>○基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用して表現する言語活動をより取り組み易くなるよう工夫されている。</p> <p>○学習の見通しを立て、目標をもち、学習を通して知識・技能を習得し、表現活動で目標達成をめざしている。また学習を振り返ることができる構成になっている。</p>
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○ Section を見開き 2 頁構成とし、右頁に目標文と目標文を習得するための Listening, Speaking, Writing などの活動からなる Activities を設けている。目標文がある Action! でも同様な言語活動を設けている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○ Chapter 末に、その Chapter で学習し、習得した目標文や重要表現を、実際に活用して書いたり話したりする表現活動 Chapter Project を設けている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○新しい文法を学ぶ際には、肯定文→疑問文→否定文の順が原則になっており、生徒にとって理解・運用しやすい提示順になっている。</p> <p>○チャプターごとに目標文を中心とした文構造・文法事項が系統的に整理・復習できる『Check It Out』コーナーが設けられており、繰り返し学習できる工夫がされている。</p> <p><外国語を通じて、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫></p> <p>○レッスンの各セクションごとに目標文の定着を図れるように、4技能の活動が用意されている。また、レッスン末の Review では、目標文や重要事項を4技能の言語活動を通して復習できる構成になっている。</p> <p>○Chapter Project や Book Project では習得した知識・技能を活用して表現する言語活動をより取り組みやすくなるよう工夫されている。</p>
色 資 料	<p>○1年生では「各言語の挨拶」2年生では「起きてから寝るまで」や「ジェスチャー」、3年生では「こんな場面で伝えたい一言」が巻頭末に設けられている。また各学年とも付録の「More Words」に自己表現に活用できる単語集が設けられている。</p> <p>○点字がどのように表されるのか、実際にアルファベットを点字にした表を載せ、凹凸が体感できるよう工夫されている。巻頭に本文関連写真資料がある。単語は主に基本文下に配置されている。</p>
表記・表現	<p>○1年は年間を通してブロック体、手紙やスピーチ原稿、日記は手書きの文字、メールはコンピュータの字体が使用されている。1年で各単語にアクセント付記、2・3年で発音記号が併記されている。欄外に発音の仕方の説明(発音記号使用)が示されている。</p> <p>○1年のレッスン3、レッスン8と段階的に文字が小さくなっている。2・3年でさらに文字が小さく、字間が狭くなり、情報量が増えている。</p>
総 括	<p>○生徒にとって身近な話題に始まり、徐々に世界へと視野を広げる展開で、生徒の知的好奇心を喚起する題材を揃えている。魅力ある題材によって、さらなる学習意欲を引き出そうとしている。</p> <p>○「聞く」「話す」「読む」「書く」活動をバランスよく配置し、各技能の統合的な活動を「Chapter Project」で行う。実践的コミュニケーション能力を育成し、高校への円滑な接続を図ろうとしている。</p> <p>○重要な語は太字で表示し、本課でくり返し扱って定着を図ろうとしている。また有用性の高い語彙を「Word Tree」で体系的に学ぶことができるようにして語彙力の強化を図っている。</p>

外国語（英語）調査資料 1 - 4

項目	書名 NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition	15 三省堂
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○4技能を総合的にバランスよく育成するため、習得から活用へ、学ぶプロセスを「見える化」するレッスン構成となっている。</p> <p>○自ら学ぶ生徒を育むため、学び方がわかる多彩な情報が満載されている。</p> <p>○考える力と豊かな心を育むため、興味を持つ、感動する、感化を深める多様な題材がある。○入り口は音から文字へのスムーズな移行、出口は高校に繋がる確かな英語力の育成をめざし、小・中・高の接続を図っている。</p>	
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫> ○各 Lesson を「とびら」、「GET」、「USE」、「文法のまとめ」の4つのパートで構成する。GETでは、聞く・話す・書くことを繰り返し練習して基礎を習得し、USEでは、読む・話す・書く活動を通して基礎的な力を活用するよう意図されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫> ○話す活動を、「発表」型と「会話」型の2つに分けて、それぞれににに応じた指導ができるようにしている。また、効果的な表現を促す、発表・会話の仕方、書き方のヒントを提供したり、目的をもった聞く・話す・読む等の活動ができるサブ Lesson を配置している。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ○実際の使用に即した場面設定、興味を喚起する話題、他者と関わりながら進めていく活動が豊富に配列され、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育成できるような内容が多く盛り込まれている。 ○個々の学習をサポートするページ『For Self-Study』が各学年にあり、英語の学習の仕方に関するヒントを提示され、生徒の自主的な学習を促すような工夫になっている。</p> <p><外国語を通じて、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫> ○各レッスンで、GET（習得）→ USE（活用）のそれぞれの段階に応じた本文（読む）と言語活動（聞く、話す、書く）が配置してあり、4技能を総合的にバランスよく育成できるようになっている。 ○各学年とも3つの Project（統合型言語活動）が配置され、複数の技能を使用するタスクが随所に盛り込まれ、4技能を統合的に使用できる力を伸ばせるように配慮されている。</p>	
資 料	<p>○各学年とも巻頭で世界の地域の文化や暮らしを紹介している。各学年とも「For Self Study」を設け、個に応じた学習方法を紹介し、自ら学ぶ力が育成されるよう配慮されている。巻末に「What Can I Do?」（Can Do リスト）があり、生徒が自分の学びをセルフチェックできるようにしている。</p> <p>○各学年とも巻末の付録には「絵でわかる単語のしくみ」や「いろいろな単語」が資料として掲載されている。単語は本文横に配置されている。</p>	
表記・表現	<p>○全学年を通してブロック体、手紙やカード、作文の原稿は手書きの文字、メールはコンピュータの文字が使用されている。1年で各単語にアクセントが付記され、2・3年で発音記号が青紫色の文字で併記されている。欄外に音声面のアドバイスがある。</p> <p>○1年のレッスン4から文字が小さくなっている。また、2・3年で文字がさらに小さくなり、情報量が増えている。行間は2・3年で狭くなっている。</p>	
総 括	<p>○英語を学ぶ中で、英語の運用力はもちろんのこと、英語を自律的に学んでいく力、さまざまな事柄に興味を持つとともに主体的にそれらに関わっていく力、これら3つの力を生徒一人ひとりが学んでいけるようしている。それは「レッスン構成が習得から活用への学ぶプロセスを見える化していること」「学びのサポートとして、学び方がわかる多彩な情報が満載されていること」「小・中・高の接続として、入り口は音から文字へのスムーズな移行、出口は高校に繋がる確かな英語力の育成としている」「興味を持つ、感動する、考えを深める多様な題材を配置して」考える力と豊かな心を育もうとしている。</p>	

外国語（英語）調査資料 1 - 6

項目	書名 COLUMBUS 21 ENGLISH COURSE	38 光 村
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○ CAN-DO 型の到達目標を明確にするため、「英語を使ってできること」を目標としてはっきりわかるようにして、Unit、学期、学年と3年間のステップで着実に力をつけるようにした。</p> <p>○英語そのものを学ぶだけでなく、他教科の豊かな内容を英語で学ぶことで、生徒の知的好奇心に訴え、思考力を養うよう「新しい学び」の提案がされている。</p> <p>○小学校の外国語活動が中学校の英語の学習に円滑につながるように工夫されている。</p>	
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫> ○各単元は本文と Try It! で構成され、基本知識を習得しながら活用のための練習ができるようになっている。単元のまとめの You Can Do It! では、実際の使用場面を想定した言語活動を通してその単元の到達目標を達成できるよう構成されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫> ○「CLIL 英語で学び考えよう」では、技術・家庭、社会、理科、保健体育など他教科の内容の一部を英語で学習することで、「英語を学ぶ」だけでなく「英語で学ぶ」体験ができるよう工夫している。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ○小・中学校で学ぶ教科の内容の一部を英語で学ぶことで、教科横断的に思考力を養うことができ、英語に対して苦手意識をもっている生徒でも意欲的に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○ Your coach では、進度に応じた学習方法や、英語学習の目的意識を喚起するための丁寧な解説があり、モチベーションを高めながら自律的に学習を継続できるようになっている。</p> <p><外国語を通じて、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫> ○本文の下に Reading Task が用意され、ポイントを押さえた問いに答え、本文の理解度を確認できる。また、Try It! では、聞く活動でインプットを、話す、書くなどの活動でアウトプットの活動が行える工夫がされている。</p> <p>○聞く活動の後、場面設定を明確にすることで、話す、書くなどのアウトプット活動へ無理なく移行できる構成になっている。</p>	
資 料	<p>○「Your Coach」では学習段階に応じて英語学習の仕方のヒントが示されている。各学年とも「Word Square」には自己表現に活用できる単語が、また巻末の「こんなときどう言うの」で場面に応じた表現が掲載されている。</p> <p>○巻頭には各学年とも本文関連写真資料がある。単語は主に本文下に配置されている。また各 Unit には「英語を使ってできるようになる」ための到達目標が設定されている。</p>	
表記・表現	<p>○1年は年間を通してブロック体で使用されている。1年で各単語にアクセントが付記され、2・3年で発音記号が紫色の文字で併記されている。欄外に発音する上でのポイントが示されている。</p> <p>○学年ごとに同じ文字の大きさ・行間で統一されている。学年が上がるに従って、文字が小さくなり、行間が狭まっている。</p>	
総 括	<p>○人や文化の多様性を受け入れることができる英語の力、心を育てながら、英語をつかってできることを、少しずつ増やしていくことを目指している。</p> <p>そのために、自然な英語に触れながら、生きた言葉の使い方を学ぶため、中学生のためのストーリーや生きた英語の題材を扱っている。4技能のバランスがとれたコミュニケーション能力が身につくよう本文と Try It! で見開きのページ構成を基本とする。学習に対するモチベーションの向上を目指し、知的好奇心に訴え、意欲を引き出す内容の題材や効果的な学習の方法を提案している。</p>	